



スマートでクリエイティブな魅力ある ハンガリー

Message from Ambassadorsの特別編「Interview with Ambassadors」として、1月31日にパラノビチ・ノルバート駐日ハンガリー大使に、海外投融資情報財団（JOI）理事長 小杉俊行よりお話をうかがいました。

コロナ禍における 駐日ハンガリー大使館の活動

JOI理事長 小杉

海外投融資情報財団（JOI）は、ハンガリー大使館とこれまでに、V4（ヴィシェグラード4カ国）への投資機会や日・ハンガリー外交関係開設 150 周年を記念したセミナーをともに開催してきました。

本日はあらためて、コロナ禍における経済状況と政府の対応策、エネルギー戦略ならびに欧州、V4および東アジアとの関係などについてお話をうかがいたいと思います。

本論に先立って、まずは、コロナ禍でさまざまな制約があるなか、この1年間の大使館の活動状況はいかがでしたか。

パラノビチ大使

日本の皆様同様、やはり、東京オリンピック・パラ

リンピックが最も重要なイベントのひとつでした。ハンガリーチームは、オリンピックでは金メダル6個、パラリンピックでは金メダル7個獲得という素晴らしい成績を修めました。コロナ禍という非常に困難な状況の中で、開催のために奔走された関係者の皆様には感謝しかありません。

麻布十番にあるリスト・ハンガリー文化センター東京では、「TOKYO 1964 ハンガリー選手団の追憶～当時の記録から～」と題した企画展など、東京オリンピック・パラリンピックに関連した5つの展示会を開催しました。

また、昨年10月には、赤坂のアークヒルズで「第2回ハンガリー・フェスティバル」を開催しました。一昨年の第1回はオンラインでの開催でしたが、昨年初めて実開催できたことを大変うれしく思っています。フェスティバルは今後も継続していく予定です。

川崎市および川崎フロンターレと、「テックボール（ハンガリー発祥の卓球とサッカーを組み合わせた新しいスポーツ）」の普及や、川崎市、横浜市、相模原

駐日ハンガリー大使 パラノビチ・ノルバート

1978年、南ハンガリーのペーチ市生まれ。

故郷の大学で経済学を専攻した後、2002年に初来日、関西外国語大学でアジア学を履修。その後、ハンガリーの大学院で経営学修士号を取得。メキシコの権威ある私大、ラス・アメリカス大学・プエブラからの招聘を受け、同大学で講師として勤務。

2004年に再来日、博士号取得のため名古屋大学に入学。在学中、ハンガリーの新聞とビジネス誌の日本特派員としても活躍。日本の首相や経済界要人にインタビューし、さまざまなジャンルの重要な出来事を中心に、本国ハンガリーに情報を提供。

博士課程における卒業論文のテーマは、「日本の平和構築を考えた上のODA外交」。2008年に名古屋大学に受理され、博士課程を修了。このテーマに沿って、さまざまな論文を執筆。特に重要なのが、ラウトレッジ出版の『日本の政治と経済・変革の可能性』の中のODAによる平和外交の一章。その後、名古屋大学から招致され、客員教授に就任。

ジャーナリストとして活動する一方、ハンガリー最大の食肉加工メーカー、ピック・セゲド社の東京事務所を立ち上げ、自らが代表として活躍。食べられる国宝・マンガリッツァ豚をアジア市場に紹介。同社は日本はじめ東アジアに販路を拡大。母国ハンガリーに少なからず利益をもたらしたと同時に、日本におけるハンガリーの知名度向上にも寄与。

この功績もあって、2016年に民間人として駐日ハンガリー大使に就任。

ハンガリー語以外に日本語、英語、スペイン語とドイツ語に堪能。趣味は食文化の探求、映画、スポーツ、旅行、異文化交流。



市で少年サッカー大会「ハンガリー大使館杯」開催などコラボレーション企画も実施しました。

2020年の福島県を皮切りに、山口県、石川県および東京都で順次開催された「ブダペスト国立工芸美術館名品展」も後援しました。ハンガリーの名品だけでなく、日本の美術や工芸の影響を受けた西洋の作品が展示されましたので、1世紀以上前から日本の文化や工芸技術を受け入れてきた、歴史あるハンガリーのモノづくりについても知っていただくよい機会になったことでしょう。

大使館は経団連と、さらなる協力関係推進のため定期的に懇談会を行っています。これは2019年12月のオルバーン首相来日の際に始まったものですが、昨年末にも大使館にて実施しました。

以上のように、大使館としては、コロナ禍の現実に対応しつつ、さまざまなイベントを開催し、できる限りオープンであるよう努めました。

欧州におけるハンガリーの存在

小杉

ハンガリーが1990年代に体制移行を進めていた当時、パラノビチ大使は学生だったと思いますが、体制移行をどのように感じていらっしゃったのでしょうか。

パラノビチ大使

1990年代初頭のハンガリーにとって、OECD、EU、NATOへの加盟が喫緊事項でした。当時、アウトサイダーであったハンガリーは、それら機構への加盟条件を満たすためにベストを尽くし、結果、加盟に至りました。その当時に感じていたのは、新たに加盟しようとしている国にとって、エンラージメント（拡大）がもつ意味でした。ハンガリーはその当時の経験に基づき、強い国々がより強いEUを作り、強力なEUが、経済開発においても安全保障においてもすべての加盟国の利益になると信じています。したがって、今やEU拡大を強く支持、支援していますし、現在、加盟手続きを進めている国には一刻も早く加盟してほしいと考えています。EUの拡大、発展、安定には西バルカン諸国の存在が重要な鍵となります。また、「V4+日本」にとっても、西バルカン諸国との協力は重要であり、さまざまなビジネス機会をもたらすでしょう。

メディアでは、EU各国のイデオロギーの相違が欧州懐疑論として偏見的に取り上げられがちです。各国で相違があるのは当然であり、現実はその単純ではあ

りませんが、われわれは、強い国々がより強いEUを作る、そして強いEUがみんなの利益になると信じています。日本ではあまり知られていませんが、V4諸国におけるEU支持率はEU平均より高くなっています。

小杉

V4や三海域イニシアティブ（3SI）の枠組みにおけるハンガリーの立ち位置はいかがでしょうか。

パラノビチ大使

ハンガリーは2021年7月から1年の任期でV4の議長国を務めています。任期後半に入ったところですが、政治、経済、ビジネスに関する数多くのイベントを計画しています。欧州としてウィズ・コロナ、ポスト・コロナへの適応、再活性化、変革が求められるなかで、V4の意義、存在感を示していければと思います。実は先日、V4を紹介する初のマンガ^{注1}を発行しました。V4の成り立ちや今日における欧州の成長のエンジンとしての存在に加え、各国の食文化などを紹介しています。多くの皆さんにご覧いただき、V4に関心をもていただければうれしいです。



注1：マンガは以下のリンクよりご覧いただけます。

<https://culture.hu/jp/tokio/publications/V4-manga-based-on-hi-story>

小杉

ハンガリーは、V4だけでなく、三海域イニシアティブ（3SI）にも属しています。ハンガリーは内陸国であり、港湾へのアクセスは重要事項だと思いますが、3SIについてはどのようにお考えでしょうか。

パラノビチ大使

確かに、エネルギーや原材料の調達といったサプライ面での安全保障においては、多くの港湾や地域にアクセスがあることは重要であり、3SIという枠組みを歓迎しています。しかし、ハンガリーにとって政治的にも経済的にも優先すべき枠組みはV4です。

コロナ禍に立ち向かう ハンガリー経済

小杉

次に、経済についてお聞かせください。コロナ禍においては感染対策と経済活動の両立が課題であり、多くの国がその2つのバランスを取るうえで困難に直面していますが、ハンガリーの状況はいかがでしょうか。

パラノビチ大使

一昨年末に新型コロナウイルスワクチンが利用可能となったとき、ハンガリー政府は、早期のワクチン接種が早期の正常化を可能にすると考えました。EU内でいち早く、安全なワクチンをできる限り多く確保することに努め、モデルナやファイザーをはじめとした数種類のワクチンの中から国民が好きなワクチンを選択できる供給体制を整えました。そして、行動制限の範囲や期間を最小限に抑えることができました。

昨年、夏の間は落ち着いていた感染状況も、秋には再拡大しましたが、人の移動や経済活動への制約はありませんでした。繰り返しますが、ハンガリー政府は、国民が制限のない自由な生活、ビジネス、経済活動を行うためには、ワクチン接種が肝要だと考えています。ハンガリーは、3回目のワクチン接種を8月下旬に開始しました。さらに、高齢者などを対象とした4回目の接種も始めています。いずれもEU加盟国の中で最も早い対応です。

経済活動をほとんど制限しなかったことが功を奏し、アジアや欧州他国との著しい違いをもたらしました。2020年はEU加盟国のGDPが軒並み落ち込みを見せ、ハンガリーも然りでしたが、EU平均ほどは大きく落ち込みませんでした。IMFは2021年のハンガリーの経済成長率を7.6%と推計しており、Moody'sなどの主な格付会社はハンガリーのソヴリン信用格付の見通しを「ポジティブ」または「安定的」としています。

ハンガリー政府は、コロナ禍に立ち向かう経済対策として税制優遇制度、雇用創出、投資サポートなどを用意しました。緊縮財政をとる国もありますが、ハン

ガリーは逆に、経済に刺激を与え、企業が将来を見通せるようにサポートする道をとるべきだと考えたのです。そして、その成果が表れ始めています。2021年初頭に4.5%に上昇した失業率は第3四半期には3.9%まで戻りました。家計消費の大きな増大もありました。投資活動も停滞することなく継続しています。コロナ禍という困難にはロックダウン、経済活動や国民の行動の制限ではなく、医学と科学で立ち向かわなければなりません。

日本企業の関連では、2020年5月14日、シーヤールト外務貿易大臣は茂木外務大臣（当時）と電話会談した際、日本人ビジネス関係者に対する入国規制をいち早く緩和することを伝えました。現在、日本をはじめ一部の国のビジネス関係者は何ら制限なくハンガリーに入国いただけます。

また、ハンガリーは持続可能でグリーンな社会への移行を進めています。たとえば、ハンガリー国立銀行は、省エネや耐久性に優れた住宅建設にインセンティブを付与するグリーンハウジングプログラムを提供しています。

2020年、ハンガリーはサムライ債市場において、ソヴリン発行体として初となるグリーンボンドを発行しました。これによりサステナブルファイナンス大賞の国際賞をはじめとしたさまざまな賞をいただきました。同ボンドの人気は高く、ハンガリーが日本の機関投資家からの信頼を得ていることがわかります。債務管理局（AKK）は近々、2回目となるサムライ債市場でのグリーンボンド起債のためのオンラインロードショーを日本で開催する予定です。^{注2}

注2：関連資料は以下のリンクでご覧いただけます。

<https://akk.hu/content/path=green-japanese-version>

ハンガリーのエネルギー戦略

小杉

グリーンボンドの話が出ましたが、もう少しハンガリーの気候変動問題に対する取り組みや、エネルギー戦略についてお聞かせいただけますか。

パラノビチ大使

ハンガリーでは、再生可能エネルギーの導入が非常に重要なエネルギー戦略の一部です。2030年までに6500MWの太陽光発電設備の設置を目標としています。ハンガリーのエネルギー安全保障においては、Clean、Smart、Affordableが3つの鍵になると考え

ています。昨今、欧州への天然ガス供給が取り沙汰されているように、ハンガリーのエネルギー政策においても「安定供給」は大事な要素です。また、許容可能という点において価格も無視できない問題です。ハンガリーは、2030年までに温室効果ガスを1990年比で40%削減し、再生可能エネルギーの割合を最終エネルギー消費量の21%まで増やすことを目標としています。また、エネルギーの安定供給という意味でも温室効果ガスの排出削減という意味でも原子力発電は欠かせない存在です。日本同様に原子力発電を含め適切なエネルギーミックスを進めていかなければなりません。

小杉

エネルギー安全保障、脱炭素への移行のいずれの観点においても、電源構成の多様化は喫緊の課題だと思います。特に内陸国であるハンガリーにとっては、LNGの供給には制約があり、より再生可能エネルギーの利用が必要でしょう。再エネの利用にあたって、電力系統のアップグレードなど新たな投資が求められているのでしょうか。

パラノビチ大使

ご指摘のとおり、再エネ発電は供給が変動的であり、電力系統も変えていかなければなりません。また、バッテリー・ストレージを各システムに組み込んでいくことも必要です。

2021年9月、ハンガリー政府は「国家クリーン開発戦略（National Clean Development Strategy）」を採択しました。これには「国家水素戦略」も含まれています。われわれの長期目標はもちろんグリーン水素ですが、移行期間においては低炭素水素も活用しなければなりません。燃料電池についても、トラックや長距離バス、さらにはごみ収集車への利用を進めています。日本企業の専門知識、技術を歓迎します。日本企業にとっても大いに成長の機会をもたらすでしょう。

東アジアとの関係

小杉

EUにおける立場やV4についてはすでに触れていただきましたが、ハンガリーは2011年より「東方開放政策」を展開しています。これは東アジアだけでなくロシアなど東方広範囲に及ぶものですが、特に日本、中国、韓国との関係をどのようにとらえているのかお聞かせいただけますか。ハンガリーの産業界はこの3カ

国の違いをどのようにお考えでしょうか。

パラノビチ大使

JOIは直接投資に関する情報発信に力を入れていると思いますので、関連するところからお話します。ハンガリー投資促進庁（HIPA）によると、2021年のハンガリーへの直接投資額は過去最高の59億ユーロ相当を記録しました。422件の投資プロジェクトにより1万4000人以上の新規雇用が創出されました。なかでも、東アジアからの投資が22件、30億ユーロ相当で、金額では5割以上を占めました。これらはまさに、東方開放政策の成果といえるでしょう。特に、韓国のSKイノベーションはハンガリーで過去最大のグリーンフィールド投資を決定しました。2019年の最大の投資国は韓国、2020年は中国、2021年は韓国が返り咲きました。2021年の大型投資の半数以上が韓国によるものです。韓国輸出入銀行の調査によると、韓国の有望投資先国の第2位がハンガリーだったそうです。

もちろん、日本からの投資もあります。昨年、福井県の繊維メーカーであるセーレンが初めて欧州に自動車用合皮シート材の工場を設立しました。セーレンの工場は私の出身地であるペーチに設立されたため、感慨もひとしおです。東レハンガリーは、バッテリーセパレーターフィルムの生産設備の増強と関連設備の新規導入を決めました。日清食品は、ケチケメート市にある即席麺工場拡張のために追加投資をしています。あまり知られていないことですが、欧州で販売されているカップヌードルのほとんどがハンガリーで生産されています。日本からの投資は自動車産業向け、最近ではe-モビリティ向けのものが主ですが、食品などさまざまな分野に可能性があります。

韓国、中国と比べると、日本にはまだまだハンガリー、延いてはV4諸国への投資機会があると思っています。韓国や他の東アジア諸国は、ハンガリーおよび周辺地域における投資機会を、よりダイナミックにとらえており、日本企業にも同様のチャレンジを望んでいます。二国間の経済活動と政治・外交的な関係は切り離せません。ハンガリーは日本をはじめとした東アジア諸国と良好な関係を築いていますが、特に日本には、われわれの地域におけるより積極的な政治・外交面での活動を期待しています。それによって、伝統的な友好関係がいっそう強化され、投資が拡大することを期待しています。

小杉

ご指摘のとおり、これまでは日本からハンガリーに

は自動車関連の投資が中心でしたが、投資分野が少しずつ多様化を見せていることは非常によい傾向だと思います。

パラノビチ大使

新規外国投資は、e-モビリティや電子機器、バッテリーなどの産業分野にも広がっていますし、地域的にも多様化しています。ハンガリー国内のさまざまな地域が魅力的な投資環境を提供しています。

将来、最も可能性のある投資分野はエネルギーでしょう。日本のテクノロジーが歓迎される、シナジーをもたらす分野です。化石燃料からの転換や電力系統の近代化などに日本企業の専門性が求められています。

V4の共同プロジェクトでエネルギーが重視されているのはもちろんですが、鉄道プロジェクトにも大きな期待が込められています。たとえば、現在、ワルシャワからブダペストまでは鉄道で12時間近くかかります。4カ国が高速鉄道で行き来できるようになれば、より連携が深まります。高速鉄道は日本の得意分野です。欧州で進められている鉄道プロジェクトについてぜひ一度検討いただきたいと思います。

小杉

ベオグラード～ブダペスト間の高速鉄道プロジェクトには中国が融資していると承知していますが、ワルシャワ～ブダペスト間の高速鉄道プロジェクトの計画は進んでいるのでしょうか。

パラノビチ大使

フィージビリティ・スタディは終わりました。今後、どのようにプロジェクトを実施していくのか関係先と協議していくところです。まだまだ初期の段階であり、資金および建設のいずれにおいても日本企業の参画を願っています。

小杉

日本企業が投資することになれば、おそらくJBICやNEXIなど政府系機関が、場合によっては欧州投資銀行やEBRDなどとともに融資することになるでしょう。

パラノビチ大使

これまで長い間にわたって培ってきた日本政府および政府機関との協力関係に基づき、日本企業の参画の可能性を探っていければと思います。日本にとってもフラッグシッププロジェクトとなるでしょう。

ハンガリー政府のリーダーシップ

小杉

先日、今年1月22日に放送されたオルバーン首相のラジオ番組「グッドモーニング・ハンガリー」でのインタビューの内容を拝見しました。コロナ禍での政府の対応や移民政策など詳細にお話しされていましたが、首相がこのようなかたちで国民に向けてメッセージを発信するのは一般的なことなのでしょうか。

パラノビチ大使

首相は定期的にラジオの生放送に出演し、政策の背景などを説明しています。国のリーダーが国民に寄り添い、政策決定に至った経緯などを自ら語ることは、とても大事なことだと思います。

小杉

日本では、主に記者会見を通して政府がメッセージを発信していますが、ハンガリーではいかがでしょうか。

パラノビチ大使

日本同様に、官房長官による定例記者会見など、政府はさまざまな方法で政策に関する情報を発信しています。昨年末には長時間の記者会見が行われ、ジャンルを問わず質疑応答が行われました。メディアは情報を得る場として、政府は政策を説明する場として、双方にとって有益な機会となっています。

小杉

日本同様、ハンガリーでも少子化は大きな社会問題かと思いますが、日本のメディアでも話題となったハンガリーの少子化対策についてお聞かせいただけますか。

パラノビチ大使

ハンガリー政府は現在だけではなく将来のことも考え、EUで、いや世界で最もユニークでダイナミックで魅力的な少子化対策を実施しています。4人以上の子どもを産んだ女性の所得税の生涯免除、3人以上の子どもがいる家庭が住宅や乗用車を購入する場合の補助金支給といった施策です。これにより、少しずつではありますが、既婚率と出生率が上がってきています。若者向けの支援も充実しています。25歳以下の国民は所得税が免除されます。ハンガリーは国民を大事に考え、また国民もハンガリーでの生活、仕事に魅力を感じるでしょう。

日本企業へのメッセージ

小杉

では、最後にJOIの会員企業に向けて、パラノビチ大使からのメッセージをお願いします。

パラノビチ大使

ハンガリーはSite Selection Magazineの「Global Best to Invest 2021」レポートで「Best to Invest Top Metros」に選ばれました。ハンガリーは大変魅力的な投資スキームを企業に提供しています。政府は、地域振興、研修、R&Dおよびコロナ対策支援の補助金や、税控除などのプログラムを提供しています。何よりも特筆すべきは、wage adjusted labor productivity（労働生産性を平均人件費で除した比率）がEUで最も高いことです。また、日本でもよく知られていることですが、法人税率が9%とEUで最も低くなっています。サプライヤーも近接しており、EUおよびその近隣国を含む5億人の市場へのアクセスにも恵まれています。EUのエンジンは中東欧地域にシフトしつつあります。ハンガリー経済はEU平均の2倍の速さで成長しています。同程度の規模の国の中では、欧州のみならず、世界で最も良好なパフォーマンスを示しています。ハンガリーは今後も世界の動きにダイナミックに対応していきます。

ハンガリーは、経済状況や投資環境が優れているだけではありません。科学や教育にも力を入れています。R&D分野への投資はもちろん、留学先としても検討していただければ幸いです。実は、ハンガリーの医科大学や大学の医学部では450人以上の日本人学生が学んでいます。日本のメディアでも紹介されていますが、新型コロナの予防接種に使われているメッセンジャーRNAワクチンを開発したカタリン・カリコ博士はハンガリー出身です。カリコ博士は、先日、国際科学技術財団より、優れた科学技術の成果として日本国際賞を授与されました。カリコ博士の業績は、ハンガリーの教育や科学水準の高さの表れといえるでしょう。

この執務室にも飾ってありますが、ルービック・キューブは42年前にハンガリーで発明されました。コロナ禍の巣ごもり需要のためか、今、4回目の流行期にあります。小さいながらスマートでクリエイティブなところがハンガリーとよく似ています。このインタビューを通して、あらためて、日本企業の皆様にハンガリーの魅力について知っていただければ幸いです。



大使執務室のルービック・キューブ

小杉

ハンガリーが投資だけではなく、教育、研究、科学面でも外国に対して開かれた国であることがよくわかりました。本日は貴重なお話をお聞かせいただき、誠にありがとうございました。



インタビュー後の記念撮影

左：JOI理事長 小杉、右：パラノビチ駐日ハンガリー大使

お問い合わせ

JOI 事業企画部

E-mail: bd@joi.or.jp、TEL: 03-5210-3311

駐日ハンガリー大使館 二等書記官 ケレケシュ・アンドラーシュ

E-mail: Andras.Kerekesh@mfa.gov.hu
TEL: 03-5730-7120